

『学校だより』令和3年 2月号

在籍数：小学部13名，中学部2名 合計15名

Escuela Japonesa de Panamá

パナマ日本人学校

TEL: 223-7782 269-4726 FAX: 264-4751

E-mail: japonesa@panama.lolipop.jp <http://panama.lolipop.jp/>



令和元年度卒業式、令和2年度入学式終了する

校長 小坂 誠二

1月29日に卒業式、2月5日に入学式を遅ればせながら実施でき、職員一同胸をなでおろしている次第です。昨年3月10日に発令された学校閉鎖措置。あと2日で卒業式が開催できたのと思いながらも、卒業生2名ともそのまま本校に進学することになっていたため、政府の指示に従い、学校閉鎖解除を待っていました。しかし、ここまで延びるとは予想もせず、とうとう1年が経過しようとしています。

さて、その卒業式と入学式ですが、リモートでパナマと日本をつないで行いました。時差14時間のため設定時間が難しく、また日本では土曜日が登校日になっている所もあり、午前7時開始（日本午後9時）という時間帯となりました。低学年の皆さんには、遅い時間となってしまいましたが、しっかりとした態度で参加してもらい大変よかったですと思っています。



特に今回は、通常の半分の時間ということもありましたが、在校生一人一人からもお祝いのメッセージの発表があり、パナマ日本人学校らしいものぼのとした雰囲気の中の式となったように思います。これを機会に、それぞれの子もたちが、一つの区切りをつけ、新たな道に進んでいってもらえればと考えています。

さて、この入学式や卒業式ですが、このように小中学校段階で行っている国は、あまりありません。大学などはこの国でも行っていますが、小学校や中学校では、普段着で全校朝会の一環として行われるだけです。日本では桜の咲く季節に、子供の成長を祝って長年行われてきました。考えてみますと日本という国は、人間の成長に従って一つ一つの区切りを大切にする祝い事が多くあります。子供が誕生すると1週間目に「お七夜」歯が生えて来た頃には「お食い初め」1歳になると「一生餅（誕生餅）」といった祝い事が行われます。入学式や卒業式といったこともそういった通過儀礼的な慣習の一つなのかもしれません。こういうところが日本人としての国民性を形作っているのかもしれない。



第41回海外子女文芸作品コンクール入賞・会報掲載 おめでとうございます

例年開催されています海外子女教育振興財団主催のコンクールに、今年も本校から多数応募し下記の通り結果が届きましたのでお知らせします。力作ぞろいの作品によって学校賞も連続で頂くことができました。

また、2020年発行の日本パナマ友好協会会報（28・29号）にも、本校児童生徒の力作が掲載され、彩を添えています。来年も応募を予定していますので、パナマならではの作品を待っています。

優 秀	作文	KY, KT
	詩	IK
	俳句	KY
佳 作	作文	AM, IK
	短歌	SR
	俳句	IK
	詩	KY
学校賞	パナマ日本人学校	

28号掲載作品
俳句 MS, YK, YT
短歌 IS, MS, YS, OY, WA
29号掲載作品
俳句 KM, SY, NA, YK, SK,
NU, OY, ST
短歌 IS